九州歯科大学第六四回卒業式式辞

式辞

本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ、来賓各位ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六四回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員にとっても大きな歓びであります。ご多用中にもかかわらず、本日、ご臨席を賜りました来賓の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その歓びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科六四期生および口腔保健学科三期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いがつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが溌剌として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培ったプロフェッショナリ

ズムの精神をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、記念すべきことに、平成二六年五月に創立百周年を迎えました。あわせて、年月の流れは早いもので、平成十八年度に公立大学法人化してから一〇年という区切りの年を迎えました。そのようななか、昨年の十月に、九州歯科大学は、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの３つの基本理念に加え、６つの教育研究目標を掲げました。さらに、この九州歯科大学憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。本学で学修してきた皆さんは、大学を卒業後、あらたな組織の一員として生きていくことなりますが、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研修に励んでください。そして、様々な局面で、自らに課題を課し、解決方法を考えながら行動するする社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡

県の温かい支援のもと、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。福岡県は、アジアのゲートウエイとして様々な活動を行っていますが、そのようななかで、本学は、ここ数年の間に、海外の９大学と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を開始しました。今年度は、歯科医学教育センター内に設置した海外連携推進室が主体となって、本格的な学生の海外研修活動を展開してきました。歯学科の学生がタイのシーナカリンウイロート大学歯学部で研修生活を送り、口腔保健学科の学生が高雄医科大学歯学部で研修を行ってきました。その一方で、タイおよび台湾から歯学部学生が本学で研修を行ない、海外歯科大学との本格的な相互交流が開始されました。さらに、今年度の大学院入試において、タイからの留学生が大学院歯学研究科に合格しました。創立百周年記念式典で、Global　and Local Academic　Collaboration を掲げた九州歯科大学は、Kyushu Dental University という英語名に相応しい口腔の総合大学大学の道をしっかりとした足取りで歩み始めました。

今後、すべてのライフステージで、口腔保健の向上を通じて、国民の全身の健康増進を図るという歯科医療の新たな展開は、我が国のみならず、世界的レベルで求められま

す。このような認識のもと、諸君も栄えあるKyushu Dental Universityの卒業生として、Think globally, act locallyの精神を大事にして歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

君たちは今から歯科医療人としての道を歩み始める訳ですが、ここで、夏目漱石が、その著書「私の個人主義」で語っていることを紹介します。

漱石は、このなかで、「自己本位という言葉を自分の手に握ってからは大変強くなりました。」と述べたうえで、「何かに打ちあたるまで行くということは、学問をする人、教育を受ける人が生涯の仕事としても、あるいは十年、二十年の仕事としても、必要じゃないでしょうか。ああ此処におれの進むべき道があった！ようやく掘り当てた！こういう感投詞を心の底から叫びだされる時、あなたがたは始めて心の安んずる事が出来るのでしょう。容易に打ち壊されない自信が、その叫び声とともにむくむくと首を擡げてくるのではありませんか。貴方がた自身のために、それが絶対に必要じゃないかと思います。」と続けています。

今日、卒業する君たちは、それぞれ時期や内容は異なるかもしれませんが、艱難辛苦に遭遇し、戸惑うことがあると思います。しかし、生涯研修が求められる歯科医療人にとって、最大の喜びは、今後、患者さんに相対していく

なかで、漱石が言う「ああ此処におれの進むべき道があった！ようやく掘り当てた！こういう感投詞を心の底から叫びだされる時」に出会ったその瞬間が歯科医療人になって良かったと思える時であり、君たちにはその時が必ずおとずれると固く信じています。卒業生諸君、このことを胸におさめ、生涯、歯科医療人としてお励みください。

むすびに、吉田松陰が語った「才あれども務めずんば、何をもって才を成さんや」という言葉を卒業生諸君に送り、いかなる困難に遭遇しても、努力の精神を失うことなく、社会を生き抜き、Think globally, act locally の精神を失うことなく国内外で広く貢献する人材となることを切に願い、私からの式辞と致します。

平成二八年三月十七日

九州歯科大学
学長　西原　達次